

アル・デンテ 一周年企画

アル・デンテの誕生日は
1994年の5月1日。
おかげ様で一才を迎えます。



4月23日(日)～5月7日(日)

シェフより感謝の
特別コースを
用意してお待ちしております。

(前菜・パスタ・お魚料理・お肉料理・パン・デザート・コーヒー)

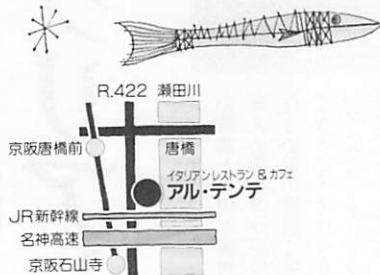
6,000円



- お席の都合上、ご予約をお願い致します。
- 詳しくはお問合せ下さい。

5月8日からは
“イタリア食彩ぐるり旅”

—ピエモンテからシチリアまで—
を企画しています。



アル・デンテ
ITALIAN RESTAURANT & CAFE

- 営業時間 11:30AM▶10:00PM
- 水曜定休
- 大津市蟹谷2-15

ご予約 Tel.0775-33-3888



イラスト：佐藤アモール陽子



マンボカー
パラダイス
クルマで銭湯に
出かけよう!

銭湯すれば、人情もすたる。ちよつと前からブームになっている健康ランドも、さすがにいっ行っても、大広間の宴会場で爺さん婆さんのカラオケ大会やっていると、いつしか足が遠くなってやっばり銭湯に出かける今日この頃。当然、家風呂があつても出かけてしまつて、そして家から歩いて5分とかかからないところにある銭湯にも、クルマで出かける。家風呂の何倍もある総タイル張りの壁や浴槽に豊富な湯量、サウナ、気泡マッサージ、超音波風呂、松島や富士山が描かれた壁画、風呂上がりのコーヒータン、ぶら下がり健康器、椅子の横にスエアリングハンドルがついたマッサージ機、大きな扇風機、年期的はいった身長計、体重計、番台越しに一瞬伺える脱衣所、隣の女湯から聞こえる物音……銭湯の楽しみを挙げたらきりがなし。スイッチひとつで適温でお湯張りができる便利な家風呂があるというのに、やはり銭湯にはかなわない。

札幌で生まれ育つた家にも増の大きな風呂があつた。でも週に何度かは父親に手を引かれて近所の銭湯に行っていた。その時は、銭湯帰りのやきそば屋でのかき氷が楽しみだったと記憶している。家でお風呂が沸いているのに、なぜ出かけるんだと父と母が言い合っていたこともあつた。気温氷点下の吹雪の中、アノラックを着て毛糸の帽子にマフラー、手袋で銭湯に行くこともしょっちゅう。でも楽しかった。帰ってくる母の機嫌が悪かった。高校卒業後、東京のアパートでの一人暮らし。そんな昔のことでないにしても、今のようにバスタイレ付きワンルームが当たり前ではなかつた頃。毎日の銭湯通いが日課になった。アパートから歩いて5分以内の所に6カ所も銭湯があつた。それぞれ個性があつて、脱衣所ではなくて浴場の方でガンガン演歌の有線がかかっていた五色湯、細かいタイルを使って描かれたヌードの美女の壁画があまりにも美しく、名前も粋な人生浴場。夜十時を過ぎたあたりから、女物の下着をつけ、豊胸手術を受けたと思われるオカマがチラホラ入ってくる(もちろん男

湯に入ってくる) 妙法湯など、その日の気分次第で銭湯を選ぶことができた。晴れて大学に合格し、クルマの免許を取ってから、さらに銭湯の楽しみが増した。歩いてもたった2、3分の銭湯にわざわざクルマで出かけるのだ。馬鹿じゃないかと思われだろが、これが実に気持ちいいのだ。風呂からあがった後、髪を乾かさず冬でもTシャツ一枚でそのままクルマに乗る。もちろん下は履いている。三角窓を両方共開け、その他の窓も全開で風に吹かれる。夜風が肌に気持ちいい。銭湯から出て一時間以上もこれといって意味もなく都内を徘徊する贅沢。ちよつと反エゴロジのような気もするが、この快感一度やると病みつきに。やったことのない方には、この気持ちよさはわかります。